

宇都市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和8年1月14日（水）13:30～15:20

2 場所 宇都市役所市民交流棟2階 C・D・E会議室

3 出席者（敬称略）

<運営委員>

	所属・役職	氏名	備考
商工団体	宇部商工会議所 会頭	久次 幸夫	新任
企 業	U B E 株式会社 常務執行役員	高瀬 太	
	セントラル硝子株式会社 宇部工場長	佐藤 敬二	
	NTT西日本株式会社 山口支店長	西 一仁	代理出席 副支店長/ビジネス営業部長 羽迫 喬
	株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長	柳屋 芳雄	代理出席 監査役 藤本 哲憲
	ユーピーアール株式会社 代表取締役 社長執行役員	酒田 義矢	欠席
大学等	国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長	田邊 剛	欠席
	国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長	山田 陽一	欠席
	国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長	稻葉 和也	
	独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長	金寺 登	
金融機関	株式会社山口銀行 執行役員 宇部支店長	大本 理恵	
	株式会社西京銀行 宇部地区統括部長 兼 宇部支店長	藤岡 義彦	
	西中国信用金庫 執行役員 宇部地区ブロック長 宇部支店長 兼 東新川支店長	松島 隆二郎	新任
支援機関	地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長	小関 浩幸	代理出席 副理事長 前田 秀治
	公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長	福田 浩治	代理出席 常務理事兼事務局長 高田 政夫
自治体	山口県産業労働部長	永田 明生	代理出席 イノベーション推進課長 喜多 和隆
	宇都市長	会長 篠崎 圭二	

<関係者>

山口大学医学部附属病院 助教 西田 周泰

株式会社宇部情報システム NEXT ビジネスデザイン部 部長 町田 圭吾

株式会社三菱総合研究所 主任研究員 佐々木 玄太

<事務局>

産業経済部 部長 林 孝之、次長 村岡 和弘

成長産業創出課 課長 中角 直人、副課長 川本 満隆、係長 清永 浩幸、主任 山根 朋巳

4 内容

- (1) 会長挨拶
- (2) 令和7年度の成長産業の創出・育成に向けた取組

別紙、**資料3**により事務局が内容説明

- (3) 事業プロジェクト紹介

山口大学医学部附属病院 助教 西田 周泰氏が事業内容を紹介

— 説明に対する質疑 —

- (4) 成長産業に関する令和8年度の取組の方向性

別紙、**資料4**により事務局が内容説明

- (5) ショートピッチ

株式会社宇部情報システム NEXT ビジネスデザイン部 部長 町田 圭吾 氏が事業内容を紹介

- (6) アドバイザリー機関による意見等

別紙、**資料5**により株式会社三菱総合研究所が内容説明

— 説明に対する質疑 —

- (7) 意見交換

【運営委員の主な発言概要】

- ・中長期的なビジョンについて

市が成長産業に資金を投じる最終的なゴールは、宇部市を元氣にする、雇用を増やすことである。中長期的な成果として、どの程度の雇用創出を目指しているのか、研究が実用化した際に市内にそれを受け入れるインフラがあるのかなど、市の考えを教えてほしい。

→ 個別のプロジェクトによるが、補助事業者からは、大局として2030年度に市内への設備投資や産業集積を目指すという計画が提出されている。補助金を交付する際の事業計画を一つの約束とし、事業が途中で頓挫しないよう伴走支援を継続していく。

→ 宇部市にある山口大学医学部、工学部、宇部高専にもシーズはたくさんあるが、社会に実装できる環境が整っていなかった。一方で、それらを事業化できる可能性は十分にあるということで、本協議会を立ち上げて、2021年度から支援事業を進めてきた。今まで立ち上がっててきたプロジェクトの世界市場規模は既に90兆円を超えてると試算されている。協議会の立ち上げから4年が経ち、いつまでに、どの程度の設備投資や雇用創出を目指すのか、市民の皆様に納得してもらえるような具体的な目標を検討していきたい。

- ・研究開発は外部・内部環境の変化などによって100%上手くいくわけではないため、税金を投入する事業としては、どこで支援の終わりを判断するのかという視点も必要である。

- ・医療機器開発において、PMDA（医薬品医療機器総合機構）への相談には専門知識が必要である。世の中には製品に対しては明確な指示が得られないこともあるため、西田先生のコンソーシアムのような、知見のある方が内部にいると、開発の初期段階で適正な目標数値設定の助けになる。

- ・知財戦略において「工学とバイオの両方に精通し、幅広い知財の専門知識に対応できる弁理士」とのマッチングが重要になる。

- ・データ解析人材について、成長産業の起業化が少ない要因の一つはデータ解析人材の不足である。山口大学では、4月に情報学部が新設される。宇部高専でも情報教育が強化される。現在、データサイエンスの専門家は医学部からのデータ解析依頼で手一杯の状態である。成長産業の推進にあたって、情報分野の人材育成にも目を向けるとよい。
- ・宇部高専では全国の高専の中でも珍しい、プロジェクト学習の科目があり、約600人の学生が地域課題などの解決を図る取組を行っている。地域の皆様から課題をもらって、ビジネスプランコンテストに参加するなど、アントレプレナーシップ教育も進めている。
- ・若者が宇部で夢や希望を持てるよう、成長産業創出の取組を小中高生や高専生に積極的に紹介してほしい。学生のうちから、大学や企業の成長産業に関するプロジェクトに関わることは、将来に役立つ大きな経験になる。協力させてもらいたい。
- ・運営委員会の場は、現在進んでいる研究や課題感がわかるため、ありがたい。
- ・スタートアップ企業が一番困っているのが、固定費（オフィスにかかる費用）である。スタートアップの拠点として、例えば、閉校する学校などを有効活用してはどうか。
- ・宇部市は、産学公金の連携が充実しており、地域の絆が深まっていると感じる。
- ・西中国信用金庫では、日本政策金融公庫と協力して「事業承継マッチング支援（継ぐスタ）」を行っている。スタートアップ支援の新たな形として参考になればうれしい。
- ・創業関連資金についても支援を行い、その後の成長のための伴奏支援なども行っていく。
- ・山口県産業技術センターの特徴として、様々な企業とのマッチングを伴走して行うコーディネーターが10名ほど在席している。マッチングや研究開発の希望など、案件があれば相談してほしい。
- ・やまぐち産業振興財団では、中小企業の経営課題の解決に向けた支援が主な事業内容である。また、DXや創業支援、販路開拓（展示会出展）支援も行っている。機械系の事業者との付き合いが多いため、試作から製造段階で、相談してほしい。
- ・山口県では、企業の研究開発を支援している。宇部市の強みは、医学部があることだと考えている。山口県としても医療関連分野を重点分野として力を入れており、今後も市と連携して支援していく。

【宇部市長】

- ・委員からの貴重な意見に感謝する。皆様の意見を今後の取組に反映させていく。
- ・引き続き産学公金連携連携で取組を進めていく。今後もご協力をお願いする。
- ・今回御説明した成長産業とイノベーションの創出に向けた本年度の取組について、皆様からの評価をいただきたい。また、次年度も引き続き本取組を進めていきたいが、その点について、御承認いただきたい。

→ 異議なし

【配付資料】

- ・運営委員会委員名簿
- ・配席図
- ・成長産業の創出・育成に向けた取組報告
- ・成長産業に関する令和8年度の取組の方向性
- ・アドバイザリー機関による意見等

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5